



十一月十五日（土）、胡桃館小学校（今 信夫校長）において、「鶴田町立胡桃館小学校創立百三十周年記念式典」が執り行われ、学校の歴史にまた一つの節目を迎えました。

式典が始まる前に、同地区の一戸平二さんが二十五年前から学校で指導している登山ばやしと地区出身の山田ユリ子さんが指導している踊りが披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。

式典が始まり、まずは式典協賛会会長である渋谷信一さんから「歴史ある胡小っ子として胸を張って明日に向かってください」とあいさつがあり、そのあとの学校長式辞で、今 信夫校長はステージに上がり、まず、児童たちの前に立ち、ホワイトボードとさまざまな道具を使いながら、この百三十年の間にあった歴史や歩みを語りかけるように児童に話をしました。

式辞が終わると、歴代の校長、長年同校に勤務された先生、歴代PTA会長、部活動や学校支援にご尽力くださった方々に感謝状が贈られました。来賓の祝辞で、中野町長から祝いのことが述べられると、児童たちは真剣な面持ちで耳を傾けていました。

「児童喜びのことば」では、はじめに児童を代表して六年

式典前に、登山ばやしと踊りが披露される



歴代PTA会長に感謝状が渡される



生一戸魁人君が一人でステージに立ち、「ぼくは 今」という題の喜びの言葉を述べ、そのあと児童全員がステージの前に並び、喜びの言葉を述べ、終わりに児童全員で「Smile Again」（スマイル・アゲイン）という曲を、体いっぱい大きな声で歌い上げると、来場者全員から大きな拍手が贈られました。

最後に校歌を歌う時には、目頭を抑えている方もいるほどすばらしい感動的な式典となりました。

今回の式典は、地域から寄せられたた協賛金のみで行われており、記念誌やパンフレットなどのほとんどが実行委員会による手づくりで、関係者の皆さんは本当に苦労されたと感じました。しかし、地域の方で組織される創立百三十周年事業協賛会、学校PTAで組織される実行委員会、そして学校が一つになって協力し合い、行われたこの式典は、子どもたちの心に強く印象づけられ、また地域の人や子どもたちに「学校っていい」と思わせるかけがえのない宝物を残してくれたのではないのでしょうか。感動をありがとうございました。

記念誌にも寄せられた主催者からのメッセージを皆さんにご紹介します。



創立130周年記念事業実行委員長 一戸 祐治さん

わたし自身、旧校舎で百周年を迎えた最後の卒業生であり、そのわたくしが保護者として、そしてPTA会長として130周年の実行委員長になり、記念事業を行うにあたり、こだわったことが2つあります。それは地域を上げてお祝いするために、協賛会を組織すること、もう一つは100周年および120周年でも使った『郷和してあすを拓く』をテーマに使用することでした。

昨今、記念事業をやらない学校も多い中で、昨年から校長先生や役員の皆さんと相談して計画してきました。

10年前と比べて児童数が半分に、管内の学校では一番少人数の学校になりましたが、その分、学校・家庭・地域のまとまりは一番だと自負しております。

記念式典を挙げるにあたり、ご協力いただきました学校関係者及び、実行員の皆様に感謝し、伝統を守りつつ、さらなる発展と成長を祈念いたします。



△児童を代表して「喜びのことば」を発表する一戸魁人君



△子どもたちが体いっぱい歌う姿は感動を誘った。

創立130周年記念事業協賛会会長 渋谷 信一さん

わが胡小が、今年で創立130周年を迎えることができ、共に喜びたいと思います。

わたしは、昭和37年度の卒業生でした。わたしの祖父、父、子どもと4代にわたり卒業できたことに感謝申し上げます。

この原稿を書いている途中、古い校舎の様子や運動会などのことなどを思い出しました。またPTA活動でいろいろな研修などに参加したころがなつかしく思います。

「ゆとりの教育」「総合的な学習の時間」いや「学力向上」だとか、いろいろ教育も揺れ動きますが、勉強と遊びを通じて、子どもたちの幸せを、ただ願うものであります。



胡桃館小学校長 今 信夫先生

明治、大正、昭和、そして平成と続いた130年もの歳月、幾多の変遷と辛酸をなめた激流の時代にあっても、すばらしい校風と輝ける伝統を守り育ててきた胡桃館小学校。おめでとう。

いつの時代も、学校は地域にとって文化の中心であり、子どもたちの屈託のない笑顔と歓声は、地域住民の希望の灯となってきた。

学校というのは同じ年頃の子どもがお互いに切磋琢磨して育ち合う場である。大人がどんなに手をかけようとも、どんな教材をそろえ、すばらしい教育環境を与えようとも、それだけでは、子どもは鍛えられることはない。さまざまな個性や能力を持った多くの子どもたちの集団の中で、競い合い、学び合いながら、それぞれの個性や能力を発揮し、力強くたくましく成長するのである。そして、それこそが、今の時代を生きぬくための根本的な力である。感謝



△記念品は5年生伊藤翔太君のお母さん（伊藤みどりさん）が今回のテーマを書いた「書」が使われた。

児童喜びのことば

平成二十年わたしたちの胡桃館小学校は創立百三十周年を迎えました
おめでとうございます

明治十一年二月五日わたしたちの学校が生まれました
境内宮内に民家を借りて始まった胡桃館小学校
はじめ三十人ほどの児童

それから 明治 大正 昭和 平成
という四つの時代をたくましく生きてきた胡桃館小学校
ぼくたちを見守ってくれた胡桃の木

今年もたくさんの実をつけました
とおい昔 この胡桃の木は飢えで苦しむたくさんの人々を救ってくれたそうです

まさに 胡桃の木は 命の木
この人間の「知恵の木」「愛の木」の意味を込めて胡桃館小学校の校章が作られました

見渡す限りの稲田 たわなに実るりんごやぶどう
そしてお父さんやお母さんたちのたくさん愛情
その中で わたしたちは 今 すこやかに心豊かに育ててもらっています

今年の夏 百三十周年をお祝いしてのねぶた運行
そのねぶたには 六つの文字が書かれています
「花」「和」「郷」「熱」「情」「愛」

これら六つの願いを胸に秘めて
「郷 愛 和して 情熱をもって 未来に花を咲かせよう」
未来に向かって 今日から新たに歩み出します